

令和3年度

「地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究」  
地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進

# 「障害者の生涯学習」 報告書



秋田県大館市教育委員会  
令和4年3月

## イーハトーヴ銀河の新たな光に

大館市は平成23年度(2011年)から「ふるさとキャリア教育」を根幹として教育を推進してきました。そのねらいは、自立の気概と共感的協働力を備えた「未来大館市民」の育成です。「消滅可能性都市」、すなわち「絶望の谷底への一本道」から脱却するには、これしかないと確信したからです。その取り組みに当たり、テーゼとしたのが「一人たりとも置き去りにしない教育」です。「おおだて型授業(響学)」だけでなく、「不登校児童生徒支援」や「特別支援教育」もこの理念に基づいて、一人一人と向き合ってきました。たとえどんなに華々しい教育的成果を挙げようとも、置き去りにされた子どもが一人でも存在するならば、大館教育は忽ちにしてすべての光を失ってしまうと考えたからです。

大館市は、東京パラリンピックのタイ王国ボッチャチームの事前合宿を誘致したことを契機に、全国で14番目の「先導的共生社会ホストタウン」に認定されています。タイ王国チームは、団体戦で金メダルに輝いたほどのハイレベルなチームですが、大館の練習環境や市民との交流についても高い評価をいただきました。また、それまで馴染みがなかったボッチャ競技が大人気となり、比内支援学校や小学校などでチームが結成されました。ボッチャは、ルールはシンプルながら、一球ごとに状況が変化し、多様な戦術や技術でゲームが展開します。何より、ハンディの有無にかかわらず、老若男女すべてのプレイヤーが対等に競技できるところが魅力であり、共生スポーツとして最適です。ボッチャの振興に加え、「先導的共生社会ホストタウン」事業として、ハード面では「ユニバーサルデザインのまちづくり」、ソフト面では「心のバリアフリー教育」を進めているところです。

「ふるさとキャリア教育」を始めてから10年が経過し、当時小学生だった子どもたちも高校を卒業し、毎年、続々と「未来大館市民」としてデビューしています。その世代が、社会人となっても大館にてスキルアップ、キャリアアップができるようポータルサイトで学べる大館版リカレント教育「大館学び大学」を立ち上げました。併せて、障害のある市民も参加しやすいスポーツ、芸術文化等の体験の場をセットして、ともに学びと交流を楽しむ「障害者の生涯学習」もスタートしました。生涯学習の観点からみると、幼少年期の「ふるさとキャリア教育」に始まり、若手・中堅世代向けの「学び大学」「障害者の生涯学習」、そして各公民館が実施している高齢者向けの「市民版ふるさとキャリア教育(郷学)」とつながる「大館生涯学習100年プラン」が具現化しつつあります。

10年前、「絶望の谷底への一本道」から脱却し、私たちが取り付いたのは「坂の上に浮かぶ一片の雲」へ至る急峻な斜面でした。ともに力を合わせ、一歩ずつ道を切り拓きながら急坂を登り詰めていたら、いつの間にか目の前に光渦巻く「イーハトーヴ銀河」が広がっていました。その銀河の中で、「ふるさとキャリア教育」「先導的共生社会ホストタウン」「市民版リカレント教育」など、それぞれ異なる光源から生まれた光が一つに融合し、「共生社会の実現」に向けた新たな光の渦が形成されつつあります。とりわけ、「障害者の生涯学習」はその中心核として位置づけられる事業ですので、より多くの希望と本当の幸いを生み出すことができるよう、心して取り組んでまいりたいものです。

大館市教育長 高橋善之

# 目次

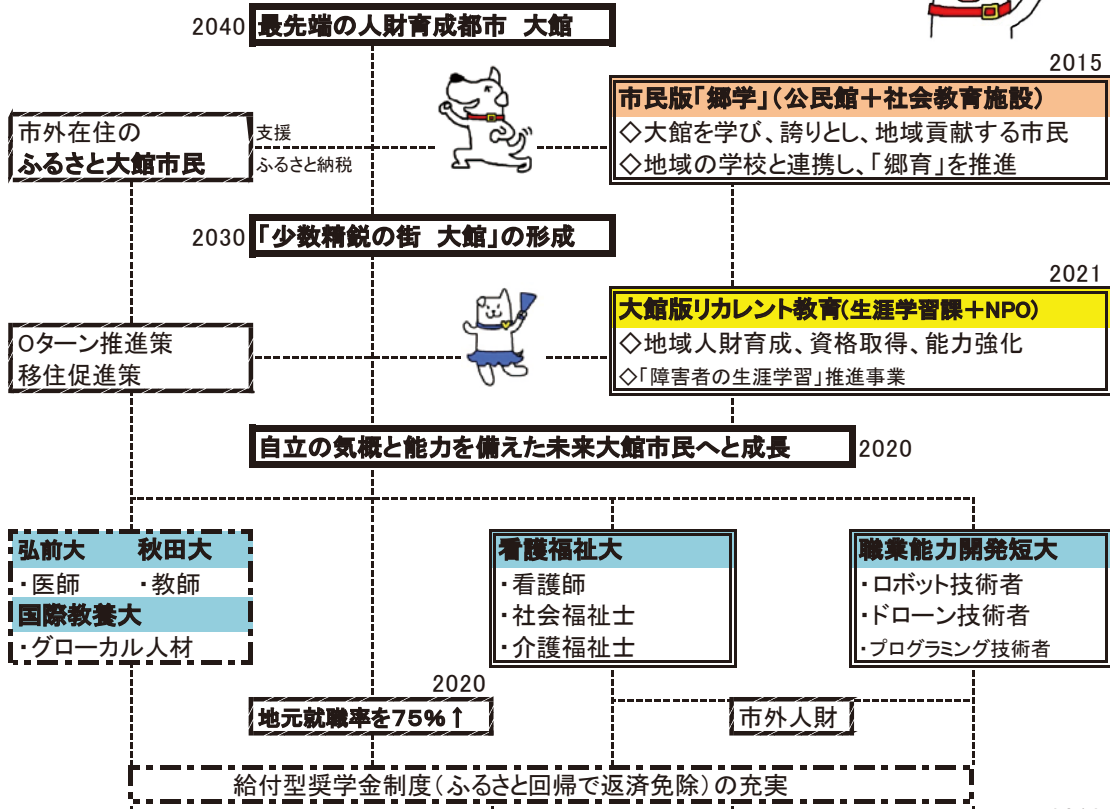
イーハトーヴ銀河の新たな光に（教育長 高橋 善之）	1
目次	2
<b>○事業計画・連携協議会</b>	
大館ふるさとキャリア教育構造図	4
大館市先導的共生社会ホストタウン関連事業	5
第7次大館市社会教育中期計画（抜粋）	6
令和3年度 大館市における「障害者のための生涯学習」推進事業	7
大館市生涯学習連携協議会の報告	8
<b>○各講座の報告</b>	
令和3年度 各講座の日程一覧	12
令和3年度 講座の開催実績	13
一緒に楽しんだアート活動（アートデザイナー 黒木 健）	14
講座運営に当たって（大館少年自然の家所長 山田 仁美）	15
ともに光りかがやく！（ダックスムーン 三浦 栄一）	17
「講座」で、みんな笑顔（コーディネーター 佐藤 正好）	19
<b>○資料編</b>	
アート活動事業案（アートデザイナー 黒木 健）	22
未来へ歌を歌おう（チラシ）	23
音楽で遊ぼう（チラシ）	24
少年自然の家を満喫しよう！報告書（生涯学習課長 一関 留美子）	25
ボランティア養成講座資料（大館少年自然の家所長 山田 仁美）	35
ボランティア養成講座資料（防災アドバイザー 野口 幸喜）	54
大館市生涯学習連携協議会 委員名簿	59
大館市生涯学習連携協議会 設置要綱	60
編集後記	62

○事業計画

○連携協議会

# 大館ふるさとキャリア教育構造図

— 大館人財育成教育100年プラン —



<b>ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり(県教委)</b>				
<p><b>比内支援学校 高等部</b></p> <p>☆ふるさと人財 ・地域貢献力 ・自立力</p> <p>いらっしやいませ!</p> <p>ハチ公カフェ</p>	<p><b>桜橋館</b></p> <p>☆地域人財 ・自立力 ドンドン!</p> <p>リスタート</p>	<p><b>大館鳳鳴高校</b></p> <p>☆高資格専門職 ・入試、資格試験を突破できる学力(医師・教師・薬剤師等) ふるさとのため、ガンバル!</p>	<p><b>大館桂桜高校</b></p> <p>☆最先端エンジニア ☆介護福祉人財 ・地域貢献力</p>	<p><b>国際情報学院高校</b></p> <p>☆グローバルビジネス人財育成 ☆起業家育成 ・英語力 ・情報活用能力 ・ビジネス能力</p> <p>世界と交易</p>
2011				
<b>ふるさとに学び、未来を創造できる人財の育成(市教委)</b>				
<p><b>中学部</b></p>	<p><b>市立中学校(8校)</b> ☆「未来大館市民」</p> <p>☆「大館市民実践力」=高い志と気概、社会的使命感 ↑ 社会変革力、社会貢献力 ☆「大館市民基礎力②」=自己理解と自己実現意欲</p>		<p><b>国際情報学院中学校</b></p>	
<p><b>小学部</b></p>	<p><b>市立小学校(17校)</b> ☆知・徳・体とも全国トップレベル</p> <p>☆「大館市民基礎力①」=主体的行動力、協働力、課題解決力等 ↑ ☆「人間的基礎力」=ふるさとへの誇り、道徳性・社会性、基本的生活習慣</p>			
<b>市内幼稚園、保育園、こども園+家庭教育</b>				
	<p>☆「人間的基礎力」=人と社会への信頼感、基本的生活習慣 大館への愛着←「わんだふる はちくんダンス」</p>			
<b>「一人たりとも置き去りにしない教育態勢」の構築(市教委+こども課)</b>				



# 大館市先導的共生社会ホストタウン関連事業

## 【市全域を対象として実施】

- **大館市ハリアフリーまちづくり協議会の設置 (2020年度)**  
マスタープランの構成、移動等円滑化促進地区等について協議
- **移動等円滑化促進方針(マスタープラン)の策定 (2020年度)**  
※地域公共交通ハリアフリー化関連事業
- **ハリアフリー基本構想及び特定事業計画の策定 (2021年度)**
- **タイ王国パラリンピックチームの事前キャンプ受入れと交流事業の実施**  
パラスポートの受入れ及び交流を通じ、住みよいまちづくりへの関心も高め、各分野におけるユニバーサルデザイン化が推進される機会とする
- **大館市ホストタウン推進協議会による大会機運醸成とタイ王国パラリンピックチームの支援(参画団体16)**
- ◆ **市職員指導によるパラスポーツ体験会の開催(月1回～2回)**

## 【中心市街地】

- **大館駅舎の改修(ハリアフリー化)と駅前広場の整備(～2023年度)**
- **区画整理事業による歩行者にやさしいまちづくり(～2022年度)**  
大館駅南方約500mの中心市街地の区画整理(歩道拡幅、電柱地中化、融雪歩道等)
- **国道7号豊町地区・長倉地区・桂城地区電線共同溝事業(豊町～長木川南)**
- **ハリアフリーまち歩き点検及びマップ作成**  
2020年10月23日に大館市障害者自立・差別解消支援協議会、地域に居住する障害者及び市職員等で、まち歩き点検を実施。調査結果はマスタープランに反映。※オリハが基本方針推進調査



**【各種計画との連携によるハリアフリーまちづくり】**

- ・立地適正化計画
- ・地域公共交通網形成計画
- ・子ども、子育て支援事業計画
- ・観光基本計画 他

【各種計画との連携によるハリアフリーまちづくり】

- ・歴史的风致維持向上計画
- ・地域福祉計画
- ・生活基本計画

タイ王国ホッチャチーム事前キャンプ受入れ施設 (全館ハリアフリー対応)

JR東日本秋田支社が、駅舎待合室内にホッチャコートを設置、パラスポーツの理解と本大会に向けての機運醸成に協力(2019年8月25日)

タイ王国陸上(パラ)チーム事前キャンプ受入れ施設 (トイレのハリアフリー化 2019年度)

現本庁舎の東側に新本庁舎を建設中(2021年5月供用開始 全館ハリアフリー対応)

タイ王国パラリンピックチーム宿泊施設(グラウンドパークホテル) 全室、浴室の入口に段差無し

## 【心のハリアフリー】

- ◆ 県内の市町村では初となる「手話言語の普及及び障害者のコミュニケーション手段の利用促進に関する条例」を施行(2019.4.1)
- ◆ **Hachi's Open Infinity cup 「はちくんオープン」(パラスポーツ交流会)開催によるパラスポーツの普及と障害者の理解向上**  
2021年以降もタイ王国との交流事業として開催予定
- ◆ 正課クラブへのポッチャ競技のメニューによるパラスポーツと障害者についての理解(小学校2校で実施中)
- ◆ タイ関係者との交流会におけるボランティアの活用(高校生以上)
- ◆ 経済界等協議会、ホストタウンアンピール実行委員会との連携による勉強会等の開催
- ◆ 障害者サポーター講習会及び手話・点字教室の開催
- ◇ コミュニケーション支援ボードの作成、設置



(記載凡例)

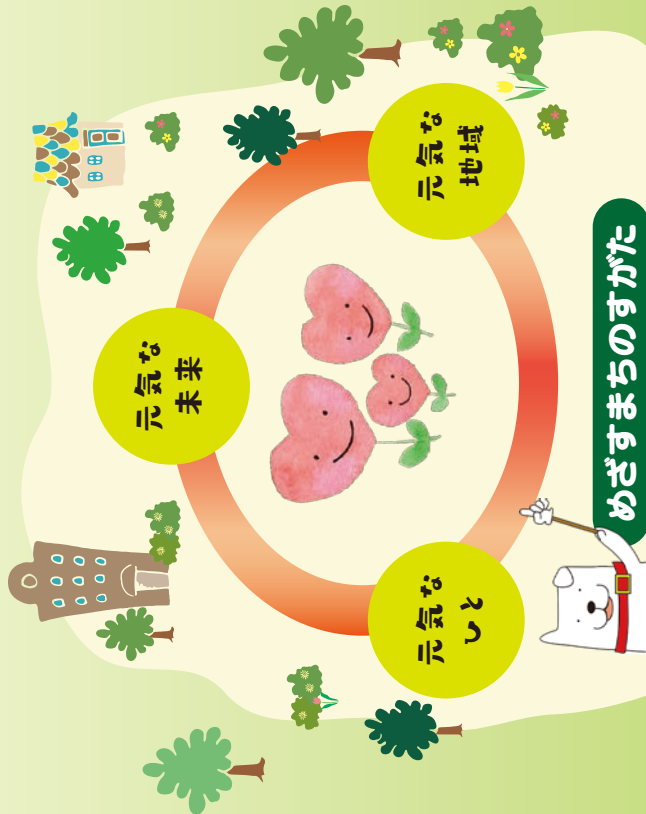
- 現在実施中の事業
- 今後実施予定の事業(計画中の事業)
- ◆ 現在実施中の事業
- ◇ 今後実施予定の事業(計画中の事業)

目玉事業→赤太字

# 第7次大館市社会教育中期計画

(令和2年度～令和5年度)

まちや暮らしのなかで市民が活躍し  
次代を育む“教育文化都市”



ふるさとに誇りをもち  
共に学び合いが  
できるまち

郷土の誇りを  
守り伝えるまち

自分をまちづくりに生かし  
つなかりをつくること  
ができるまち

誰もがどこでも  
生涯を通じて  
共に学び合うまち

## 重点施策

### ふるさとへの誇りと未来を育む生涯学習社会



ふるさとに誇りをもち  
共に学び合いが  
できるまち

**高校生ボランティアグループの育成**  
高校生まちづくり会議「HACHI」  
木育推進事業の実施  
女性センター木育ひろば  
出前講座による木育  
子育て講座の充実  
親育て、孫育て講座

**市民版ふるさとキャリア教育・学習の充実**  
市民による地元企業の学習  
子どもとの教育活動、歴史の学び  
大館版「リカレント教育」の構築  
検討委員会の立ち上げ  
各種講座の実施  
運営団体の検討

**学校図書館への支援**  
飛び出す図書館司書

**人材名簿、達人講座の活用**  
各種講座の開催  
**高齢者のための地域コミュニティ事業の充実**  
高齢者事業の拠点づくり  
**公民館事業の充実**  
老社大学  
わんぱくスクール  
地区公民館の活性化

自分をまちづくりに生かし  
つなかりをつくること  
ができるまち

**障がい者のための生涯学習の推進**  
軽スポーツ交流会  
防災学習会  
ものづくり体験  
障がい者施設との連携

**共生社会の学習の充実**  
多様性の理解

誰もがどこでも生涯を通じて  
共に学び合うまち

**郷土芸能・芸術文化に  
関する公民館・学校等との  
連携事業の推進**  
芸術文化交流、体験事業  
**地域の歴史保全の充実**  
歴史まちづくり事業

郷土の誇りを守り  
伝えるまち

## 生涯学習の情報プラットフォームの構築（生涯学習課）

**大館ふるさとキャリア教育**  
(おぼたて型学力)

**市民によるボランティア活動**  
(民間の活動)

**各種学習活動**  
(自主サークル)



# 令和3年度 大館市における「障害者のための生涯学習」推進事業

## 背景

- ◆ 第7次大館市社会教育中期計画（令和2年度～令和5年度）重点施策
  - 障害者のための生涯学習の推進
  - 共生社会の学習の充実
- ◆ 先導的共生社会ホストタウンの認定（令和2年12月25日認定）
  - 各種計画との連携によるバリアフリーまちづくり など

## 目的

- 学校卒業後における障害者の生涯学習機会の拡大促進
- 地域連携による持続可能な学びの支援に関する実践研究

## 令和3年度 事業概要

- 連携協議会の開催（年2回）
  - 連携協議協力団体（目標14団体）
- 障害者のニーズ調査と分析
  - 障害者が求める生涯学習の把握
  - 余暇としての活動の場の把握
- 支援関係者を対象とした事前研修会の開催
  - 障害者の生涯学習への理解者の育成（20名）
- 社会教育施設における講座等の計画と実施
  - 講座の開催（目標10講座、参加人数延べ100人）
- 市民への情報発信
  - 紙ベース又はネットによる
  - 情報発信（年2回）
- 持続可能な活動の実践研究
  - 講座開催時における研究

## 連携協議会



## 〈 連携と協働 〉

## 今後の方向性（令和4年度以降）

- 社会教育施設における講座等の継続と見直し
- 新たな活動への取り組み
- 市民への情報提供の継続
- 持続可能な活動のまとめ



# 大館市生涯学習連携協議会の報告

## ○実績

回数	開催日時	出席数	協議案件
1	令和3年7月6日(火) 10:00～11:30	14人	1. 委嘱状交付 2. 教育長あいさつ 3. 委員紹介 4. 会長及び副会長の互選について 5. 協議 (1) 事業説明「障害者の生涯学習」推進事業について (2) 令和3年度事業計画について
2	令和3年11月16日(火) 10:00～11:30	13人	1. 実施済み講座の報告 (1) 9/12(日) 大館市伝統文化親子教室事業への参加状況 (2) 11/7(日) 少年自然の家を満喫しよう!の実施状況 2. 今後の活動について
3	令和4年2月17日(木) 10:00～11:30	11人	1. 講座の開催実績の報告 2. 実績報告書の進捗状況について 3. 来年度の事業実施案について

## ○第1回連携協議会 委員からの意見等

- 車イス利用者の参加が想定されるので、対応をきちんと考えていただきたい。
- どういふことをやればいいのかを知るために、先進地研修を早めに行っていただきたい。
- コロナ感染症の状況を考えると、施設での事業実施に迷うことが多い。  
どう進めるかが課題となるのでは。
- 情報発信の方法としてスマホの活用も念頭に考えてもよいのでは。
- 事業を実施していく上で、委員の皆さんとの情報共有が大事だと思う。
- 移動手段が難しい場合もあるので、自宅で楽しめるようにオンライン配信や動画配信など、参加者の受信環境も把握しながら検討してほしい。
- 高校生のボランティア養成については、高校の横の連携を取りながら進めてほしい。
- 福祉事務所に新たにオープンするサロンとのコラボも考えてほしい。

## ○第1回連携協議会 コーディネーターからの意見

- 委員の皆さんは、各方面のプロだと思う。実質的に本事業はすごい事業であり、全国的にも数少なく市町村で手を挙げたこともすごいと思っている。
- 大事なことの1つは、チームとして知恵を出し合って頑張るといふこと。
- もう1つは障害のある方々にどれくらい寄り添っていけるかということ。  
重度の方や多様な障害の種類がある。
- これから、たくさん打ち上げ花火を上げるが、打ち上げないとわからないこともある。  
打ち上げる時には、障害がある方に寄り添う花火を上げたいと思う。
- 知恵を出し合って、チームとして参加していきたいと思うので、よろしくお願いします。

## ○会議の様子



### ○第3回連携協議会 委員からの意見等

#### ○移動手段の確保について

- 生活介護の施設の場合、行事が土日だとすれば保護者の送迎が必須である。  
活動的な人たちは参加ができるが、保護者が協力できない人もいる。  
送迎の確保をし、参加者しやくすることが参加者の増加につながると思う。
- ボランティアの力で送迎を行うしくみをつくる。
- 事前の予約が必要だが、市の主催として実施することから市のバスを活用する。
- 少年自然の家の事業の場合は、少年自然の家のバスの活用も考えられる。

#### ○障害者の講座に関する意見を聞くためにはどうすればいいか

- 事前に準備したアンケートがあればいい。
- 座談会的なものを行う、ランチやお茶を準備し、ざくばらんな交流ができればいいと思う。

#### ○どのような講座が望まれるか

- コンサートはとても評判が良かった。
- 重度の障害者のために、オンラインでの講座があってもよいのでは。
- パソコン講座は、体験のみで終わるのではなく就労につながるものであってほしい。
- 先進地視察として、カフェの訪問がよいのでは。

#### ○情報発信はどのようにすべきか

- 保護者の興味が高くなればどんどん広がると思う。
- プラットフォームになるものが必要。可視化、デジタル化が必要。

#### ○ボランティア養成講座はどのように実施していくべきか

- 障害者施設の職員が講師になって、障害者の関わり方を指導する。
- 比内支援学校の出前講座を活用する。
- 福祉部の障害者サポート養成講座と一体とした流れを作る。
- 障害者施設での体験もメニューにいれてはどうか。
- 認定証を発行してはどうか。

### ○第3回連携協議会 コーディネーターからの意見

- 持続可能な活動にするために、参加する障害者の方と関わっていくことを考えると、各団体の次の世代を担う職員に参加してもらうことが大事ではないか。
- 連携協議会の委員の皆さんが声をかけることによって、参加者が増える影響力がある。  
委員同志の意識を高めることが大切である。
- 周知方法として、市の広報の活用はとても効果があると思うので、事業計画を早めに作成し広報掲載をお願いしたい。

## ○令和3年度 研究の成果と課題

### 〈成果〉

- 保護者の理解が参加者のリピート率の増加につながった。
- 比内支援学校を核とした情報発信が参加者募集時に効果的であった。
- イベント毎のチラシを用いることによって、速やかに周知が図られた。

### 〈課題〉

- 連携施設以外の障害者への事業の周知方法が課題である。
- 今後、社会教育施設における障害者事業への取り組みが重要となる。
- 人材育成としてボランティア養成講座を充実させる必要がある。
- 参加者の声を聞く場が必要である。

## ○令和4年度事業実施（案）

### （1）生涯学習連携協議会の開催（年3回）

### （2）障害者の生涯学習講座の実施

- ①花育「一花一葉講座」  
作品づくり、花の絵を書く、花の写真を撮る
- ②木のおもちゃづくり
- ③おうちパン作り
- ④音楽で遊ぼう
- ⑤オンライン講座、パソコン体験
- ⑥各種スポーツ体験
- ⑦比内支援学校青年学級の活動

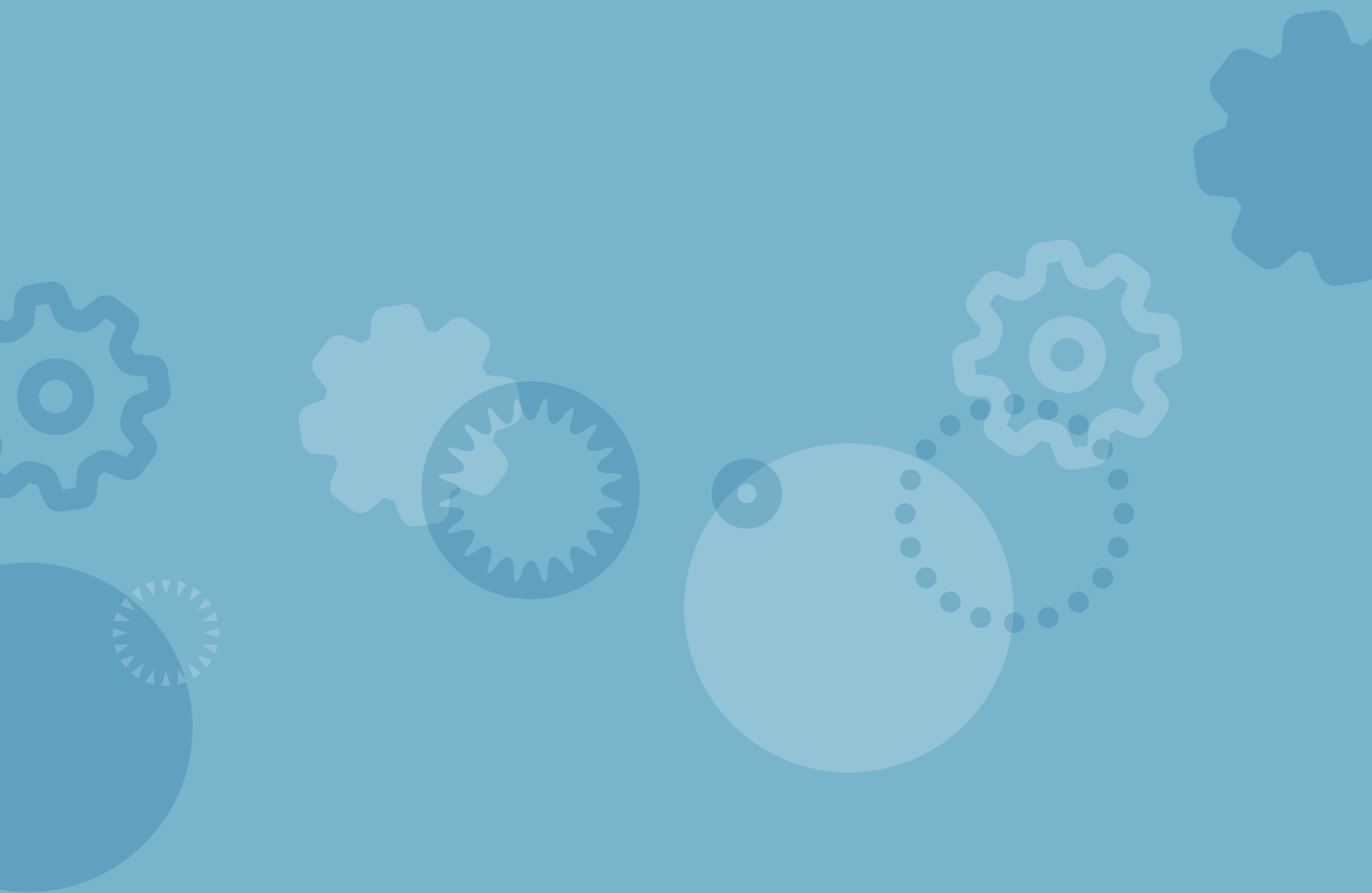
### （3）ボランティア養成講座

- ・比内支援学校の出前講座
- ・障害者施設職員による障害者との関わり方について
- ・先進地視察
- ・障害者サポーター講座への参加
- ・ボランティア体験
- ・認定証の交付

### （4）情報発信（事業連携）

- ・福祉部障害者事業
- ・障害者スポーツ事業
- ・大館学び大学

# ○各講座の報告





## ◇令和3年度 各講座の日程一覧

No.	開催日	時間	テーマ (内容)	内容	参加費	定員	講師	会場	参加対象者
1	9/12(日)	10:00～12:30	書道と生け花と お茶の祭典	<b>【伝統文化親子教室事業への招待】</b> 高校生の書道パフォーマンスの鑑賞 生け花、お茶、書道の体験	—	—	生涯学習課主催 イベントへの招待	タクミアリーナ	障害者 保護者 関係者
2	11/7(日)	10:00～13:00	少年自然の家を 満喫しよう!	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>アート活動</b> なんと自分がアニメーションになっ てしまう?!</li> <li>・<b>みんなでスポーツ体験</b></li> <li>・<b>コーヒータイム</b></li> </ul>	無料	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アートデザイナー 黒木 健氏</li> <li>・少年自然の家 社会教育主事</li> <li>・大館珈琲館</li> </ul>	少年自然の家	障害者 保護者 関係者
3	11/28(日)	10:00～13:00	ボランティア養成講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>講話</b> なぜ今、障害者のための生涯学習 を考えるのか</li> <li>・<b>講話</b> 災害時の障害者対応について</li> <li>・<b>体験</b> 災害時の食事 (アルファ化米とカレー)</li> </ul>	—	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大館少年自然の家 所長 山田 仁美氏</li> <li>・危機管理課 防災アドバイザー 野口 幸喜氏</li> </ul>	中央公民館	高校生 大学生 一般市民
4	12/11(土)	10:00～13:00	おうちパン作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>トースターを使って誰でも簡単に できる「おうちパン」をつくる</b></li> </ul>	800円	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パン講師 小山久美氏、ほか1名</li> </ul>	中央公民館	障害者 保護者 関係者
5	12/19(日)	10:00～12:00	未来へ歌を歌おう! ★ご家族・ご友人も 参加可能です	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>コンサートの体験</b> アコースティックギター</li> </ul>	無料	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダックスムーン</li> </ul>	ほくしか鹿鳴 ホール	障害者 保護者 関係者
6	1/16(日)	13:30～15:00	音楽で遊ぼう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>音楽を通して楽しく交流</b> いろいろな楽器に触れてみよう</li> </ul>	無料	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽療法士 田口 諒也氏</li> </ul>	中央公民館	障害者 保護者 関係者
7	1/30(日)	10:00～12:00	比内支援学校 青年学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木育(木のかべかけ作り)</li> <li>・スポーツ</li> <li>・カラオケ</li> </ul>	200円	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比内支援学校</li> </ul>	中央公民館	比内支援学校 卒業生

## 令和3年度 講座の開催実績

### ○参加人数

No.	開催日	開催時間	テーマ (内容)	参加人数				
				参加者	講師	スタッフ	合計	うち障害者数
1	9/12 (日)	10:00 ~ 12:30	書道と生け花とお茶の祭典	13	0	0	13	2
2	11/7 (日)	10:00 ~ 13:00	少年自然の家を満喫しよう！	12	7	9	28	8
3	11/28 (日)	10:00 ~ 13:00	ボランティア養成講座	22	2	5	29	0
4	12/11 (土)	10:00 ~ 13:00	おうちパン作り	9	2	3	14	5
5	12/19 (日)	10:00 ~ 12:00	ダックスムーンコンサート	59	2	6	67	29
6	1/16 (日)	13:30 ~ 15:00	音楽で遊ぼう	28	1	3	32	10
7	1/30 (日)	10:00 ~ 12:00	比内支援学校 青年学級	市内にコロナ感染症陽性者の発生により中止				
			合計	143	14	26	183	54

### ○参加者の声

#### ☆ 11/7 (日) 少年自然の家を満喫しよう！

- 普段は、家と会社の往復で終わっており、休日には家にいることが多い。  
アニメーション作りの時に、自分の子が自ら手を挙げて積極的に参加している姿を初めて見た。  
うれしかった。
- アニメーション作りがとても楽しかった。
- 卓球台があるのを知っていれば、マイラケットを持ってきたのに残念！
- コーヒーの淹れ方にとても興味がある。
- 少年自然の家に来たのが高等部で活用した時以来なので、とてもなつかしい。

#### ☆ 11/28 (日) ボランティア養成講座

- 障害者の現状についてとても勉強になった。
- アルファ化米を食べるのは初めてである。50人分を混ぜるのが大変だった。
- 50人分のごはんの量がすごいと思った。

#### ☆ 12/11 (土) おうちパン作り

- 朝食はいつもパンを食べている。パンがとても好きなので作ってみようと思った。  
焼きたてのパンがとてもおいしかった。
- 楽しい。2回目の参加なので、みんなの輪の中に以前より早くなじめた。
- 親子で参加したが、障害のある方と接する機会が少ないので、パン作りを通してコミュニケーションをとることができたことは、子どもにとっても貴重な体験になったと思う。
- 普段は台所に立たない息子がてきぱきと上手にパン作りが出来て本人も満足しているようだ。  
母としてもとてもうれしい。

○11月7日(日)少年自然の家を満喫しよう！

## 一緒に楽しんだアート活動

アートデザイナー 黒木 健

これからどのような方々と出会い、どのような活動が展開されるのか、ワクワクドキドキしながら秋の深まりの心地よい景色と清々しい空気の中をくぐり抜け、わんぱく大館に到着したことが昨日のように思い出されます。

「アート活動」ということでお声がけをいただき、どのような活動ができるだろうか思案しました。その活動は絵を描いたり物を作ったりというのが一般的ですが、(主催側でも恐らくそのようなイメージだったのではないのでしょうか。)短い説明時間で理解が図られ、準備が容易、想像力を働かせながら単独や共同により驚きや笑いを得られることが期待される「実写版 2 コマアニメーション」を題材として選びました。映像文化は身近なものになっています。しかし「表現する側」になることはまだまだ多くありませんので、新しい経験として楽しんでいただけるのではと思いました。

実際の活動に入ると参加の皆さんはするっと活動内容を理解し、後半になることを予想していた盛り上がり開始早々に達成してしまいました。家族の方、スタッフの皆様も加わり途切れなくカメラの前に進んできていただく様は、本荘からの運転の疲れを吹き飛ばす喜びとなりました。

「インクルーシブ (教育)」という言葉があります。その解説を読むと少々難しい言葉が並んでいますが、今回の活用ではまさにそれらが目の前で展開されていたように感じます。

アートの力、そして何より参加の皆様、スタッフの皆様の「名演技」に拍手！



〈黒木先生を紹介〉



〈講座の様子〉

- 11月7日（日）自然の家を満喫しよう！
- 11月28日（日）ボランティア養成講座

## 講座運営に当たって

大館少年自然の家所長 山田 仁美

### 《 自然の家を満喫しよう！ 》

社会教育施設としての自然の家でどのような講座ができるかを考え、スポーツ活動として「卓球バレー」を取り入れることとした。参加者が多くても活動できること、大きな負荷がかかることなく、どんな人も楽しめるということからの選定であった。今回は、用具一式を県生涯学習センターから借り受けたが、講座実施後、当所で購入し、いつでも活動ができるように備品として準備することができた。参加者の方が、卓球バレーの他にもスポーツ活動に取り組めるように、様々な用具を準備し、場の設定も工夫できた。また、「自然の家」という特性を生かし、周辺での自然散策もできるようにスタッフを配置するなど、各方面で、「開く」ということを意識して講座を運営できたことが、今回の大きな成果であった。

地元の支援学校（比内支援学校）は、「社会教育施設の利用」を教育課程に位置付け、小学部・中学部・高等部と系統性をもって本所を利用している。高等部卒業後も、障害のある方の学びが途切れないよう、継続的に利用してもらう施設たりえるために、次年度以降も様々な講座を開設したい。そのためには、今年度の講座の内容や対応等について所内で検討するとともに、利用予定の方にアンケートを行うなどして、居場所としての場をこれからも持続的に開いていきたいと考えている。

### 《 ボランティア養成講座 》

本事業の推進に当たっては、高校生等のボランティアの方の力が不可欠である。その養成講座として、事業の全体像や経緯、先行して実施している市町村の取組などについて事例を交えて講話をした。今年度は、事業スタートの年であったため、この1回の講座のみの設定であったが、次年度は、障害の特性及び障害のある方と実際に接する際の留意点等について、例えば、特別支援学校の先生から具体的なお話をいただく講座があればよいと感じた。早い時期にその内容で養成講座を設定し、そして、その講座に参加した高校生等が、実際の生涯学習講座の中でOJTとして力を付けるという形をとることができればよいのではないかと感じた。

大館市として、ボランティアの立ち位置をどう捉えるかということを確認にすることも必要であると考えている。ボランティアの方は、講座の中で、あくまで



も障害のある方を支援するというスタンスでいくのか、障害のある方と「共に学び楽しむ」というスタンスをとるのかという捉えである。私自身は後者の立ち位置がよいと考えている。実際に、北秋田市や潟上市では、継続して講座に参加する中で、障害のある方とボランティアの高校生が関係性を深め、町中で自然に挨拶を交わすという姿も見られている。

2年目に向けて、講座等について検討する際に、ボランティアの立ち位置についても一考されたい。

### 〈少年自然の家で〉



### 〈ボランティア養成講座〉



○12月19日（日）未来へ歌を歌おう！ダックスムーンコンサート

ともに光りかがやく！

ダックスムーン 三浦 栄一

今回、このような貴重な機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

日ごろ、ゆっくり音楽鑑賞したり、親子で音楽に触れる機会が少なかったりする障害者とそのご家族、関係者に向けたコンサートでしたが、あえて「障害者向けのコンサートだから、～しなければ」とは考えませんでした。願いは「生の演奏を通し、歌(声)の力や楽器の音色を味わってほしい」「家族や仲間と一緒にいる空間で一体感や絆を感じてほしい」ということでした。

アコースティックギター、ピアノ、そして今回はウクレレも交えてアンコールを含め10曲演奏しました。途中のマジックやトナカイ登場は一興。全曲、何かしらのテーマ・メッセージを込めましたが、特に様々な人との関わりや思い出を想起し、一体感を味わい・元気が出る曲をセレクトしました。曲の良さや魅力を「音の波」と「言の葉」で感じてもらえたのではないのでしょうか。ステージからは客席の様子ははっきりとは分かりませんが、子どもの手を握りリズムを取るご家族の様子や首を振りながら曲を感じている障害者の方、曲後に涙を拭う方も見て取れました。障害の種類や程度、年代が違っても音楽は皆に平等です。まさにバリアフリーだということを、私たちが実感する機会にもなりました。

実際に障害者の方やご家族がどのような音楽との出合いを望んでいるのかというニーズも分かるとよいのかもしれませんが。みんなが一度は耳にする唱歌や童謡を取り上げる企画も考えられるでしょう。いずれ、「誰に気兼ねすることなく音楽に触れて（※音楽に限りませんが）、心を解放する」時間は「ともに光りかがやく」ことにつながるはずです。



〈コンサートの様子〉



12月11日(土) おうちパン作りの様子



1月16日(日) 音楽で遊ぼうの様子



## 「講座」で、みんな笑顔

大館市生涯学習連携協議会  
コーディネーター 佐藤 正好

先日、とても美味しいキリタンポ鍋をいただく機会に恵まれた。米やゴボウ、舞茸などの食材は地産にこだわり、鶏ガラのスープはガラを精選し何度も市民の舌に馴染むよう工夫したという。やはりグランプリクラスの味は美味しく、自然と笑顔になった。

さて、私達は今年度「地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究委託事業」を活用して、大館市の障害のある方々の生涯学習を試みてきた。生涯学習課が中心となり今年度は6回実施し、全参加者は183名であった。全参加者の数が、初めてとして妥当なのか、それとも否なのかはわからないが、それ以上に私には心躍る感がある。それは、特別支援学校に勤務していた平成14年度に卒業生のための青年学級の協力を市教育委員会と福祉課に申し込んだ時、残念ながら協力が得られなかった経緯がある。進路指導で事業所を回ると、「障害者はまず働く力でしょ、余暇なんて考えなくていいんです、何を考えているのですか。」と言われた。実は、内外ともにそんな時代であったことは確かである。

あれから20年が経過した。嬉しいことに、その青年学級は現在153回を数えるまでになった。仕事はもちろん大切であるが、余暇は明日への活力であり、仕事のビタミン剤である。障害のあるなしにかかわらず、誰もがどんな形であれ生涯学習に有意義を見つけることができる。賢い人達はそんなことをずっと温めてくれていたのだろうと察する。今年度、その温めてくれていた生涯学習課が機を得て積極的に音頭をとってくれた。「一人たりとも置き去りにしない教育」市教育委員会のそんな嬉しい意気込みが聞こえてきそうな気がする。

翻って、今年度の事業を振り返ると、講座内容による材料の検討や情報提供の在り方に課題がみられたものの、まず大きな石をあるべき方向に少し動かした感がある。きりたんぽ鍋も一回では舌の肥えている大館市民をうなずかせることはできない。材料を精選し、何度も何度も挑戦しながらより美味しい鍋を求めていく。目標はたぶん食べた後に「美味しい」というお客さんの笑顔を見ることだと思う。同様に私達も講座に参加した障害のある方々が「楽しい」と洩らし、一緒に笑顔になることである。

最後になるが、今年度の本事業に関係する方々への御協力と御指導に感謝申し上げますとともに、これからもずっと継続するだろう障害のある方々の講座の充実を楽しみとし、本事業がさらに発展することを心から願ってやまない。



